



悟一葉卷之下

芭蕉菴志青著

尔於葉此事

一切字乃事

のりそのすゑせ入
をいり

右十八字

一のり治定

うふふれ

孫の乃

くわもれ也

右ニツ乃ふかのナクふ　うくふ　志付むわ
現在此れこふあり古来スツ

ニツ此れおのほふ思惟と終と合點ゆ
事ナリ

フルムクスニツ此留り少くうわと
留りおらつぬまのナリとよ此うへ格
別り事しぐわと濁れまがわるる様
ナリ花もぐわ是が何がわあり

一や 古来セツ此やこふ

切や 切のや

中乃や ハツ

類乃や

とりや のり

す 四ツメ此や

捨や

口合乃や ニツナ

中乃やすも乃やと此や口合乃やにく
或留り留事留りく　切乃名所
此や何お磨うたや却海やナと乃類切
字少きナ

一　古来三世の　こふ切字にを遣去
此　くわ　ぬ　なり　じふ　一　現在あり

木下
已ゆりきくゆいりし無ふハカ切字あり
遣去此ハゆふおかよふなり味分へ
未来乃ハ不^不乃字一りかよふ是切字あり
一文字濁りきれをふか未来なり月ハ
凡^不いもいも此類なり

一ぬハ畢ハ切字不乃ぬハ切字と 千イキシ
ニイリ乃上りなる月ハ見ぬ^不袖を千ぬ^不
ぬ^不ハ給^不なり
香ハ居^不ぬ^不此もさへ上り乃句濁り
あふふ

一も字 一字もハカよふ三字もハ
見ん^着上りん^見よく
きん^着見ん^見ん^着 寄らん 降らん
照ん^着なるの類皆一字もハカよふ 降らん
深けん^着ん^着ん^着 深けん^着ん^着 別^着けん^着ん^着
ニ終二字もハカよふ 照ん^着ん^着 あん^着ん^着
ふは三字もハカよふ皆切字一りなりなり
降らん止む乃類二字もハカよふなり
凡^着れ文盲なり降ふ止ふ乃ふま字

ゴラニヨブキル此と一字とハラリルレロ乃此音

帰ラ止ラ此此通通なり

一ウ 類類なり ややごごりりふふふふりりすすここ強強ききここ強強

おおししととれれろろここままりりふふれれ ころろああくく類類ひひ

ううねねりりふふふふ活活定定れれりり味味ふふへへ

濁濁りりききるるががハハ切切字字一一ああくくををささりりねねるる

乃乃一一がが字字一一ががひひ一一ががととりりふふハハ切切字字ふふか

類類なり

一ウ 落落着着乃乃ととはは之之發發向向の中中小小を

時時をを子子細細ねね下下にに並並時時々々中中七七文文字字のの末

一一りり小小文文字字重重くく一一りりととりりひひかかずずへへ一一小

文文字字少少くくにに人人様様とと平平向向をを中中ににああるる故

なり

一ウ 一一字字 二二字字 三三字字 皆皆同同前前 類類のの反反 一一字字 二二字字 三三字字

一ウ 片片付付落落一一つつけけるる詞詞なりなり一一字字とと一一字字

それそれとと一一向向見見ははれれめめをを類類ととるる

一ウ 花花をを類類ととるる 意意のの一一向向此此類類ととるる

かくしん多記四字一しわんうらひを
ききし何れかへ移ふ記乃何なり
つるこふとほれを記まり花咲ゆこふ
るととてう咲ゆといへとさうしゆ何なり
とつ家とふと海邊の語後を記なりい
つるも下れるといとさゆ可ふにわく切字
しりや家へ

一ず 古来もしれず切字の大小を又
七又乃節りに重字なり等方と切字

乃下ふしゆ記字と重くきこまし
切と月名花部と梅橘等れ景物を
とゆくしとふと記乃切字

連歌 一とふらひもわすしゆと記

誹諧 御覧うし思ひもしゆと記

右乃数なり

一と うらふし下知へ又それよかきよ
片付を記しゆとわり

一せ うらふし下知へしゆとわり

そりちめつせをといへる下知のおえ
深き一燈をこれのころなりとれ乃反
しせなりそ然し燈はつてせまり

一色 下知 白 空とく 隔 下知
これ下知少と自乃こはゆりしと
氷をきく 白 空とく 隔 下知 白 一色あり物
下知 空とく 隔 下知

かくれしとく下知と自もありあらうと分
なり
一へ 下知と自色ありる一 隔のとそ人と

以をそり我こはゆりし燈そ人なり
を下知少とわくはくへいへにそ人なり
くはさ下知なり

一を こはまきさけりあし 花よかけ 下知
あししそ少は白 華ふし燈かけ白

一いふ 同せ光とれあはゆりし報表詞
あしかけあり

右十八切字之初ん表人あわし 表切字用
あしかけあり

有り向うを以てしつゝ後有りふりあふ
 切字をくても語終を以てしつゝ切字
 を語終と申すは語終を以てしつゝ平句
 有り無別發句を以てしつゝかゝる勢有り
 といふかゝるはくひとの發句なり
 といふやそはしつゝらひは語終の地
 云乃野なりかゝる類有り系物似かゝる
 てを發句ありては解し松むしきま
 ひや空へさくは橋を空へむめまむ

めとらとゆれやうにまゝに松を以てしつゝ
 後しつゝ出れ向うしつゝ繋つきま
 は一作有りそゝしつゝ作違ふを以てしつゝ
 く多あり、感懐多く言外しつゝ意味あ
 然厚うに信を以てしつゝ
 一有り こそか くれより出れ
 一有り 有り せり 有り へま 有り
 有りより出ふ
 一有りか あし 有り さそれ 有り

そしけ 危かきし

一も形一 八形一 色ハ一 一色ハ一 一色ハ一 一色ハ一

なり 向しありぬる

一やハ一 一やハ一 一やハ一 一やハ一 一やハ一

不思いしよへ羨や不厭 やさけりりひくと

とらもえんを女にと繋そり 中のやあり

一六了 五け皆多縁へわれ乃又音を

字少くこめ移くこましくは 種紙しや

まけ約とよそをれ 吾とこそを移 念

そそ甘絲霜しを白く先をすといふ

あふくそより出れ

一そり ありきりきりかるといへて切

字一形しを

一いついといいついついついつ

いついといいついついついついつ

いついといいついついついついつ

いついといいついついついつ

いついといいついついついついつ

名をさしへるるさるるを子規

一玄妙切 此を三有り切字入るる有り其
留り下りらるき切字さるり減用中あり二
川もよみとてあり

一三版切 此の物と又七又二
やへといつても風情ありさるり
取あり

一三三切 此を玄妙切同ありさるり乃
事冬世より名あり中人書物あり

一二三切 三字とり名あり終中語終乃所
を一字さしては切字をさるりとの
切字ありさるりぬありさるり法あり
たさるとびありとりさるり冬外とる
此年より終あり終もびあり用に
さるりぬありとりさるり

風涼し何さるりてふ扇式

此はさるりら終絶ありとる同音あり入水
七年正月 梅の香と消敢わるる白停

既ん 道遠院版神句予りとの字奇

妙予り初ん乃人好き一幾件予り

一式固不相應 ぬれ井 予り井

予り式 にも式 につ式 皆何

予り式あり 考系式 凡也於式

ひう九式 一途へうさう家さくわ

一類乃字至所とり事

田此あせや蒼落穂と拵みらむ
あ

田此あせ乃蒼落穂や拵つむ

田と蒼といゆーかーと何派ひうふそ落
穂くさるふと

一らんこくひいねやとさうひの事古
来より定数法予り何にくもさこの
ひあはねさーん

業乃戸りい門の 類予り来遠的ゆむ
一垂字予くてさ糸かしくとー其事と
むと理とせめくりひさるハ類もん字垂

了不及也

豊乃林らまゝ此竈厚くん

厚さを久しと有り 此亦久しハ法定あり 思ふ事

帰ふ人との死を恨む心 恨む心

有り法定乃ち有り

一と留 現在 過去 此れも久し

とれりひしと造 云流をあり

よりしがを報此詞有りて久しと海

す

一に留 重字とへも久しぬ 積り

此押字少く事此字かたれハれ

と留か向しとれ在り

久し發向れるし第三事とあり

事ハ久しとあり後か久し久し

自然乃ち自然事少くハ制の限を

冬あり

生持れ久しとあり那り久し

志れ久しとありの類に事といふれを

遠山さやう名中にもひー

遺云

く此六くきりむくくーの留りなり

松亭ー 雪亭ー 人此亭ー 言

梨樹ー

一尺の留り大く短句なり尺の乃上に

最字ウクスツヌフムユルシ六きく者

小よ梨字キりフルムクスツ古来乃

留めなり夢みけ世習く形りた人

人來子よ多ま花尺の人來るも花

多ま花尺の取とけりひくく多花

と尺ゆれかく乃六くく乃字れ入やうふ

多花なり尺ゆの中る乃字といふ常而

り風流而花中人形り涅槃佛尺白

かとは尺ゆかや文字く縁とけく

形り此介浪乃人り尺ゆ梅のくか

尺白月表舟尺白六も尺竹事もま

と子乃字とあまーきりたり

思伴尺白留と上り風流自ら面白

幸とひききへ

一ト乃句れ留此事、子細き一うら五
一きり吟をれやうにきへ一目鼻を
らましく利口をれれくくと久一是
北をいふ並常うれせやれう非りくこの
へをきり

一をよ久をよにし又文字入事なり又
文字へきりくか多れやうにをれきりを
此字中乃七文字をよと来り一並事なり

ズーの月の家宿紙かききた

一ト此句て面り古来より云くはをせ
常事なり也秘事せりト此七文字小
風流とりきりト乃七文字少はいうやう
此事りよきき一かきトの七文字り
きり名ハ中り多く松をたくきり花を
ふりひくかき乃くはくきりハの字
めくはきり

一ト乃句つとゆりつつかか幾りなり此に

夕とほし一夜とらり此事ふいせんや
 我衣もハ露りやせつ我衣もハ露り雪を
 ありつやわやもは乃身もこうまつあ
 かいひつかう敷がまりとをたてて後
 物一のそり練り言ハありつた念ふとの
 小乃ころろとこめんと子細なくの上乃
 向あはまつりうひゆ人うをせぬ事
 と此向あをひきても曲あさ事なり
 と秋あを能りしをけりともりハ一向の目

物ニツとくハ不可留事

一物とと留る事も前句敷をたふ留るなり

一法定乃うくくあさり也留るなり

夢のしり月もこころひをびりしあく

一しそてよはさしりへさあましそた地

例

道あまはし雁乃くろそ

志くしそ人も氣も花あて

一八字此付所 へ 何う程あうる能

と 此字一りも此付余多し前句のあこ
こ西なり

一ト此句よりあり久とふ亦紫なりゆ人と七
文字ト七文字抄みしてと同一ころな
ゆゆふやうにむるんそれゆへ腰にとよ文字
入事句作のなり雪ととのへ一りあつと
禁一りかしく作るふとまの字とよ人字
なりあつと禁ふしゆとく後なり
一とまるんゆゆぬこり事一とと抄西なり

ゆひつあそむの曲ふしあなり久る一りゆひ
よせとく其わらは人一りささうとむるやうに
よ人あそむの曲ふしゆとくつげふの曲
そ紀なり十と六つちつちりしきそあとの
三つ四つを言か一りあつとやうよ人ふ
さう勢しと古人もゆひしと
一すも此ゆよ紫乃事一毎句ふとんさ
あり才三ふを必ある事一こむとしま
ぬゆり紫のゆひはゆゆゆとゆりも

よ紫たりすことほくろくしつたさ
 へとわよさうき園乃あしに絶えんと
 ると園此山風袖えくふ乃字とあま
 しきりし也本意あり絶すもまや中
 りよも此うぬり

一あけ向は梅乃季發其字くぬアふか
 ひろりにとれ發向此の風合とるし経言
 ちへ経云のうろ大さ其の風かとりと
 希三か此并よ付えれ系物と考へそのお

此物よとやさうふすへ

一とハ紙かやそののよせもすりぬ字
 へいり入ると向りさうぬまりとハ
 はさく免くとすゆれ事もありうけハ
 さやまじとけ乃さわけあまの類え
 一のぬと留ハあ向へとせてよはさく
 かよひ言葉けくゆうふとへ
 一とけりけし留も其あ向れとせ合の
 一とけりけし留も其あ向れとせ合の

一第ニてゑらん留自然り留りかゝ留
發句うね留脇り標乃ての付ふ留あゝと
おまは宗祇より始ふいゝやう此留あゝと
古きう先を後とと第ニめゝゆゝと
字あゝとてそゝの留より服と字留てと
はそゝ留と事とより韻字留とと此字
漢和乃何時も韻礎なり常と韻乃風流か
ふ又字あゝと留と事ととあゝとあり
一辭韻とりひの常乃俳諧とと下此句

うりあり小脇句より韻とあゝとあり是
は發句よりある字中此韻字はとと智
一向中でこれ字先を用於とととと
乃は立を此句は行ど何とととと事
稀なり

一回時乃季と用ゆるあゝとあゝととと
季は用ゆるととととととととととと
矣朝とて後り用ひ表りり用ゆるとととと
切乃作者うりゝ古人の用ゆるとととと

と月ひ向とあきり付くをわしくえき
智會殿もいふ耳と驚くす草木年約
月殿乃故事とてくせぬものなり

一 句理窟くらりりかろの作向のひ
くとみ尺の葛蒲此地中より出るや
一 句ふたもくはを乃まに地台あるを
しと瓶のわびきれやうあはあいふ
にふしと句ふをりぬう乃句作りのうら
一 言著教りしひはしし言ふ乃

根下

一 句向とてまけくはくく附く句也云
系此綴りしとくく一機今向とて
句くくお向をまきまきわ成尺在
一 句けてよと ちせくにと 捨てよ紫
きておは あつらんよ紫 どうあふ小
紫 さへよ紫 そろしとあは
松らひてよと。 言渡しよし紫

思急て月夜 何よりてふと 毛と終
 子と繁 心つけ子亦繁 心と終
 て月夜 わつり子と繁 にあてよと
 分てよと

右此子と繁道歌をよとにむむ天切まり継
 せも右流ふを用の當流めは志わくこ乃
 申は右風を口先にく言繁よりとより
 竹の色有くより右てふとあり當流
 亦及亦白此氣と見在ひりくつけゆ中

子と繁よりすよと流されと橋向四と付
 平とくか幾と

予う家お世より 芭蕉歌り
 於一葉あり 輝と 那低ま
 法武をも終と 輝と 亦作名
 成目と 亦と 亦と 亦と 亦と
 自享能以 詠終 亦と 枝を
 と 世と 亦と 人とも 亦と

今成其夏書致生
言其生而少物何樂
身之生而少物何樂
此是故生而少物
梓之錄其世亦生而少
一之生而少物何樂
之生而少物何樂
之生而少物何樂
之生而少物何樂

吾法所行其行
中其之方其行
一之生而少物何樂
一之生而少物何樂
一之生而少物何樂
一之生而少物何樂
一之生而少物何樂
一之生而少物何樂
一之生而少物何樂

應手結日 識之者心服
 即終之者乃之之性正
 一也之
 在少年 此殊亦深之題

享保十六辛亥秋八月望

江都書林
 須原屋市兵衛梓行

東都書林申椒堂藏板目錄 日本橋通室町三丁目
 須原屋市兵衛

蘭臺先生文集 全部十卷 近刻 王元美尺牘 全

龍門先生文集 詩之部 三冊 陸賈新語 蘭臺先生訓点 全

唐明詩鍵 詩作之書 小本一冊 左傳屬事 南陽先生校 全并一冊近刻

六體千字文 崑陵先生書 石摺本一冊 石印集韻 彫刻指南之書 全部二冊

猿橋碑銘 江戸諸先生之詩文書家 諸名子之墨本 一冊 歷代事跡之圖 清呂君翰 全

字畫淵海 全部二冊 大明十三省圖 二枚摺

寒葉齋畫譜 唐繪之手本 五冊 小兒方訣 錢氏 全五冊

萬國一器界方量圖

物類品鑑

平賀先生著作物産之書
全部六冊

徂来先生政字説

全

澠字及篆法帖

澠字流名家
全二冊

四季名物正字考

平賀先生著作
近刻

其角雜談集

二冊

誹諧古今明題集

徳流古今の題白集
建慶堂子撰五冊

芭蕉桐乃一集

二冊

片歌

乃のとりめ
二夜同書

口撰

二冊

硯の紙

紀述撰

二冊

片歌
乃のとり道口撰

一冊

